

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価		岐阜県立華陽フロンティア高等学校定時制課程	学校番号	6401
1 学校教育目標	<p>1 高校生としての基礎的・基本的な知識や技能と主体的に学習する意欲や態度を身に付けさせ、生徒一人一人の個性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育む。</p> <p>2 社会の規範を守る態度を養い、地域社会の一員としての自覚を高める。</p> <p>3 健康で安全な生活を送るため、基礎体力の向上を図り、健康な心身の保持増進に努める態度を育む。</p>			
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）	
	<p>1 基礎的・基本的な知識や技能を身につけた生徒</p> <p>2 主体的に学習する意欲や態度を身につけた生徒</p> <p>3 心豊かでたくましく生きる力を身につけた生徒</p> <p>4 社会の規範を守る態度を身につけた生徒</p>	<p>1 「わかる喜び」の涵養（学びの再チャレンジ）</p> <p>2 キャリア教育の推進</p> <p>3 「カウンセリングマインド」に基づく積極的傾聴（共感的理解・無条件の肯定的関心・自己一致）</p>	<p>1 「自分の生き方」を真剣に考え、やると決めたことはあきらめない生徒</p> <p>2 「なりたい自分」を見つけたいと願っている生徒</p> <p>3 自分にも、周りにも、優しい言葉をかけてあげられる生徒</p>	
3 現状の分析	<p>○生徒の個々の課題を把握し、特別支援的対応を大切にしつつ、総合的な探究の時間にソーシャルスキルトレーニング（以下SST）を取り入れることで、社会自立につながる支援に取り組んでいる。</p> <p>○ICTの活用とユニバーサルデザイン（以下UD）を意識した授業展開を積極的に実践している。基礎学習の振り返り場面や習熟度別・少人数指導を行う科目の設定、多様な選択科目を設定するなど、生徒の学びやすさを高めるための柔軟な指導を積極的に行っている。</p> <p>○「職員の共通理解に基づく進路相談体制の充実」「生徒の実態に即した学校体制の確立」「資質向上に繋がる充実した進路行事の実施」</p> <p>○「校外機関・職員間の連携を密に図り生徒状況を受容・理解した支援」「情報共有・共通理解に基づく教育相談体制の充実」</p> <p>▲さまざまな事情から継続した学習経験の少ない生徒が多く、短期的に基礎学力の定着に至ることは難しい。</p> <p>▲「地域との交流及び学校への理解の不足」「困難な家庭事情への対応」「様々な特性をもった生徒への対応」。</p> <p>▲「生徒の様々な問題行動要因背景を把握した個に応じた早期対応」。</p>			
4 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会自立に必要な基礎学力を定着させるために、学力向上に接続できるような授業展開の検討と実践。 ・SSTで身に付けた力を、授業において効果的に活用し、社会的に自立するためのスキルの獲得を目指す方法の検討と実践。 ・入学時から卒業後を見据えた進路意識を涵養するため、地域創生キャリアプランナーやハローワークジョブサポーター、キャリアパスポートを活用して、自己の将来像を描くためのキャリアカウンセリングを実施し、自己肯定感を育み、社会に貢献する意欲を養う。 ・様々な課題を抱えた生徒に対する個に応じた指導の充実。 ・高校生としての基本的な規律の習得や、社会の一員としての規範意識の向上。 ・学校行事やボランティア活動を通して、達成感や充実感を味わい、自己肯定感の向上を図る。 			
5 今年度の具体的な重点目標	<p>1 教 務 ①自己の在り方生き方を自ら考える力を育成し、良好な人間関係を構築する力を養う。</p> <p>②興味・関心を高める授業改善を行い、分かる授業を推進し、基礎学力の定着を目指す。</p> <p>2 進路指導 ①生徒が社会的・職業的に自立できるようマナーと基礎的な能力を養う。</p> <p>②自己の在り方生き方やライフプランを見つめ、主体的に進路選択ができるキャリア教育の実施と豊富な進路情報の配信を進める。</p> <p>3 生徒指導 ①カウンセリングマインドを活用し個に応じた生徒理解に心掛ける。</p> <p>②問題行動要因をアセスメントにより可視化し、認知の改善を実施することで問題行動を予防する。</p> <p>③社会の一員としての自主的・実践的な態度を育成する。</p>			

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
自己の在り方・ 生き方を考 える力の育成、 良好な人間関 係の構築	①授業中における、SSTを導入し た聞く・話す・協力するスキ ルの獲得を検証。	①授業アンケートの自己評価 の向上、スキル獲得の肯定 的回答が75%以上であった か。	①授業アンケートの生徒自己評価は聞 く・話す・書く・協力するスキルそ れぞれ80%以上であった。	A	○基本スキルに対して意 識し、実践できている姿 が確認できた。 ▲丁寧な支援・指導はでき ているが、実社会で生き 抜く強さ・逞しさを身に 付けさせる方法の検討 が必要。	A
	②生徒の個々の課題を把握し、 SSTを取り入れた社会自立に つながる実践的な学習指導。	②授業アンケートや教育相談 を通して個々の課題を確認 し、支援に努める。	②年4回の教育相談を通して個々の 課題を確認し、教科担任との情報共 有によって支援方針を確認してい る。	A		
学習指導	①基礎的・基本的な内容の定着 を目指し、ICT機器を活用した 柔軟な学びのシステムを取り 入れ、まとめと振り返りによ る定着。	①授業アンケートにおける興 味・関心に関する肯定的評 価が、70%以上であったか。	①授業アンケートによる興味・関心 に関する項目は、肯定的回答が80%以 上と高評価であった。全項目におい て、肯定的回答を維持している。	A	○生徒の授業に対する意識 や興味・関心が一層高ま った。 ▲成績不振生徒の指導の在 り方の明確化と共有が重 要な課題。	A
授業改善	①UDを取り入れた授業、ICT環境 の利活用を促進し、充実感 や達成感の得られる授業展開。	①ICT機器やタブレット、各種 アプリを効果的に利用する。	①ICT機器やタブレット等をすべての 教科で日常的に活用できている。	A	○安定してICT機器、タブ レットを活用できた。 ○公開授業、研究授業を通し ICT機器の効果的な活用 について情報共有できた。	A
	②教員間の公開授業の実施と 公開授業の参観率の向上。	②職員の公開授業率、参観率 を高める。	②公開授業期間における参観率は90% 以上となった。また、全ての科にお いて、研究授業を実施できた。	A		
キャリア支援	①コミュニケーション能力の向 上を図り、社会的・職業的自 立を支援します。	①面接や履歴書指導など、生 徒一人一人に応じた指導が できたか。	①HR担任による徹底した面接・作文指 導キャリアプランナーやジョブサポ ーターによる活発な就職面談の実施。	A	○きめ細かい指導による一 次試験での合格率の向上 ○粘り強い指導で、進路未 定者が25%を達成できた。 ○年次毎に必要なとされるSS Tを実施できた。	A
		②卒業時における進路未決定 の生徒を25%未満に減らせ たか。	②進学96%(42/44)、就職98%(40/41)、 進路未定19.8%(21/106) R05.3月末	A		
		③ソーシャルスキルトレー ニング(SST)を計画的に実施 できたか。	③総合的な探究の時間を利用し、必要 なスキル見だし、年次により年2 ～5回のSSTを実施。	A		
	②様々なキャリア教育関連行事 の開催、豊富な進路情報を配 信します。	①キャリア教育活動の一環と しての充実した進路行事を 実施できたか。	①進路情報の発信を積極的に実施。 進路ガイダンスなど多く進路行事 を生徒のニーズに合わせ、効果的に 実施。	A	○キャリア関連行事が進路 決定に大きく寄与した。 (アンケート結果より) ○更なる1、2年次生への 進路意識の涵養。 ▲キャリアパスポートの活 用。	A
②「学校評価アンケート」に おける進路指導関連項目に おいて、肯定的評価が70% 以上であったか。	②保護者82.0% 生徒74.5%が肯定 的的回答。 生徒の進路に対する意識付けが、で きてきている。	A				

生徒指導	①カウンセリングマインドを柱に生徒との信頼関係を築く。	①新入生の長欠者を25%未満に減少できたか。	①年2回、生徒情報交換会を実施した年次会と生徒指導部が情報共有し、問題の早期発見に努めた。	A	○新入生150名中、15名が30日以上欠席した(10%)。 ▲問題行動の再発が1件あった。 ○認知行動療法により、規範意識を高めることができた。 ○MSリーダーズ活動を年間2回実施した。	A
	②規範意識を向上させ、問題行動の未然予防・再発を図る。	②問題行動の再発をゼロにすることができたか。	②アセスメントを導入し、問題行動要因の可視化を図った。また、認知行動療法による認知改善を実施した。	B		
	③MSリーダーズを中心としたボランティア活動への積極的な参加を勧め、生徒の自己肯定感の向上を目指す。	③MSリーダーズ活動が年間2回以上実施できたか。	③生徒会が中心となって「高校生防災アクション」に参加し、防災意識の向上を図った。	A		
教育相談	①生徒一人一人に応じた教育相談体制の充実を図る。	①「学校評価アンケート」の肯定的評価が、生徒60%、保護者70%以上であったか。	①年3回教育相談週間で懇談を実施した。また、日常的に専門家とのカウンセリングの面談を実施した	A	○肯定的評価は、生徒が82%、保護者が86%であった。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月6日

- ・就職試験で戸惑わない程度の、基礎的・基本的な学力は、最低限付ける必要がある。また、アルバイトはコミュニケーション能力が身に付き、就職につながることもあるため、勧めた方がよい。
- ・年々、色々な課題を抱えた生徒が入学してくるが、学校は上手く対応していると思う。様々な事情から学習の空白期間があった生徒も、先生方が受けとめている。何のために高校で学ぶのか、何をしに大学へ進学するのかなど、生徒一人一人が自分の課題を見つけることが大切である。
- ・ヤングケアラー等、新しい社会問題にも対応していかなければならない。
- ・教員と生徒の関係が良い。本校に通い始めて救われた生徒の話聞き、学校の価値を知ることができた。
- ・最近の学校では、教員が先回りして生徒の面倒を見ているため、社会へ出てから上手くやっていけるのが心配。逞しく生きる力や、自分で問題を解決する力を付けさせて欲しい。
- ・卒業生などを活用し、体験談を生徒に聞かせる機会などがあれば、教員とは違ったアプローチができるのではないかな。
- ・卒業後に生徒が外部の福祉機関とつながる方法など、困ったときにどのようにすればよいか教える必要がある。

12 来年度に向けての改善方策案

- ・成績不振の生徒に対する対応の在り方の明確化と共有により、学習経験の乏しさからうまく学習に向き合えない生徒の、卒業までの目標・道筋を示せるようにする。
- ・SSTや各種行事を通して、他者と関わる力を向上させ、実社会を生き抜く強さ・逞しさを身に付けるための支援や指導を行う。
- ・今年度は、様々な特性を持った生徒に対して、個別の支援をもって、就職活動ができた。学校側も知識を得ることができ、大変良かったと思うので、このノウハウを有効に利用していきたい。
- ・自力進学希望者へ、もう少し手厚い指導ができたのではないかという反省から、学校全体を巻き込んで、取り組んでいきたい。
- ・生徒の抱える問題行動要因が多様化しているため、その背景を正確に把握していくためにアセスメントを事前実施し、可視化した情報を共有していく。
- ・カウンセリングマインドを心掛け、生徒との信頼関係の構築を実施し、日常的な生徒支援を継続して実施していく。
- ・虐待、ヤングケアラー等の早期発見、早期対応を心掛け、外部の専門機関との連携を密にし、卒業後も途切れない支援を考えていく。